

# 『「土木」「計画」「学」』は まちづくりになにができるか

平成20年6月8日(日)

久保田尚(埼玉大学)

新しい土木計画学を考えるシンポジウム

# 話題の範囲

- まちづくりといっても範囲が膨大すぎるので、ここでは、

## 都心部の交通まちづくり

に話題を限定。そのうえで、

- 「歩行者・公共交通優先のまちづくりの提案  
(例えばゾーンシステム)がなかなか実現できない」

という状況を想定

# なぜ実現が困難？

- 理由候補① 商店主の無理解
  - MM的手法に期待
- 理由候補② 「計画」自身に課題はないか？
  - 1)「規制」→「おもてなし」
    - » TDM → TDO
    - » おもてなし歩行エリア
  - 2) 輸入技術の限界
    - トランジットモール、フリンジパーキングなどの要素技術の有効性を発揮できる制度的背景はできているか？(うわべの要素技術だけを輸入しても根付かず)

# 例：フリンジパーキング

- 市街地のフリンジに市営駐車場を建設した例は多い。
- ただ、民間駐車場の立地規制が伴わないので、たんに「ほとんど使われない不便な駐車場」を作っただけで終わる。
- 付置義務駐車場の「隔地化」の議論も進んでいるが、民間駐車場のコントロールなしでは効果に限界があるのでは？
- 都市計画の枠組み拡大など「計画」の見直し必要





# 浜松市ゾーンシステムの経緯

図2-3 交通管理計画の進捗状況（平成11年3月現在）



～浜松21世紀都市交通会議からの提言～

## 将来の浜松都心交通の整備方針について



|            |                                                      |
|------------|------------------------------------------------------|
| 昭和50～52年度  | 第1回PT調査（都市交通マスタープラン策定）                               |
| 昭和60年度     | 浜松市中心市街地交通管理計画（ゾーンシステム）策定                            |
| 平成10年度     | 鍛冶町通りトランジットモール試行                                     |
| 平成12, 13年度 | 「鍛冶町通りを考えるオープンサロン」                                   |
| 平成13, 14年度 | 「鍛冶町通りワークショップ」                                       |
| 平成16年度     | 「中心市街地の交通を考えるワークショップ」での議論を踏まえ、21世紀都市交通会議が都心交通整備方針を提言 |
| 平成19年度     | 鍛冶町通りの短期整備完工                                         |
| 平成19年度～    | 第4回PT調査                                              |

# 日本の都市計画に「交通計画」は存在しない

- 昭和60年以来「浜松市総合計画」に記載されてきたが・・・
- ゾーンシステムの構成要素ごとに決定主体が異なり、実施段階で全体を統括できる「計画」が存在しない。
  - － 環状道路 : 都市計画法による「道路計画」
  - － モール : 道交法
  - － トランジット : 民間バス会社の意思決定
  - － コミュニティ道路 : 市の道路管理局
- 結果的に、市民を含む主体間での認識の相違からトランジットモール実験をめぐる大議論に発展

# 浜松市が短期整備にこぎつけることができたのは・・・ 市が頑張ったから

- 総合的なパッケージ施策の計画(プランニング)ももちろん重要だが、それは必ずしも実現を約束しない「計画」であることを理解しなければならない。
- その上で、
  - － 「やれるところからやる」といった柔軟な取組み
  - － 携わる当事者の強い覚悟
  - － 市民との絶えざる対話
  - － 行政マン個人および組織の粘り強さが鍵。
- 従って、よい計画づくりのためには、「行政の仕組み」、「人との付き合い方」をもっと理解する必要あり
  - － 行政組織論、組織内人材育成論、なども「計画」の視野に含む必要がある。

# まちづくりにおける「学」の功罪

- 功
  - 調査・分析手法
  - シミュレーション(交通、景観、・・・)
  - 社会実験
  - (もっとも長く関われる存在)  
(コンサルタントよりも、場合によっては行政マンよりも)
- 罪
  - 研究者の宿命: 新規性、普遍性
  - まちづくりも科学研究の対象にせざるを得ない。



# 「学」がまちづくりに関わり続けるため の一提案

- 「卒業計画」の創設
  - 建築学科の卒業設計を参考
  - 論文的新規性よりも即地的工夫などで評価
- 土木計画学分野の報告論文の「格上げ」・・・
- 若い研究者がまちづくりをライフワークにできる「学」

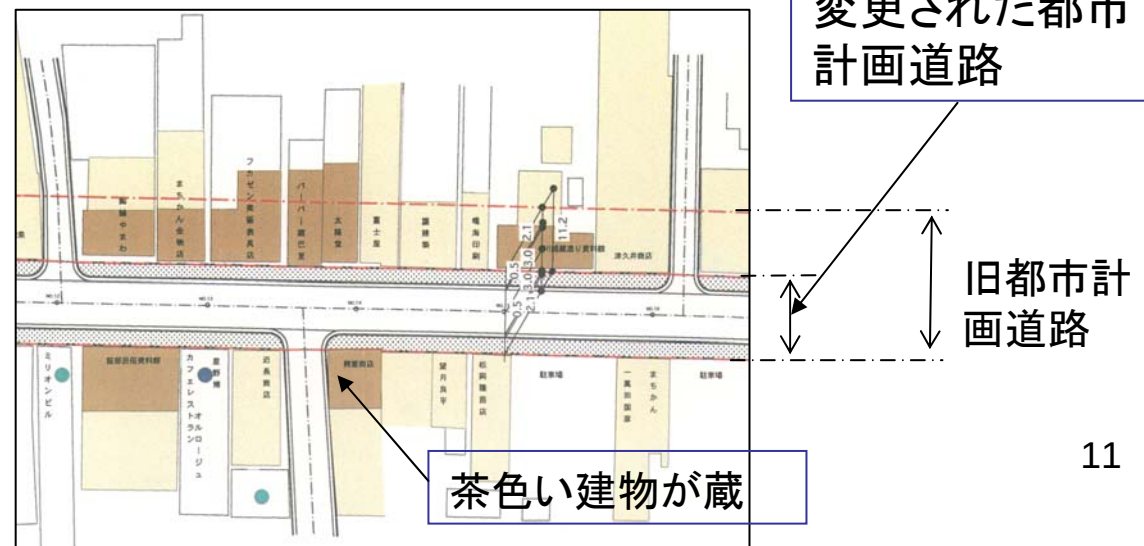
# 土木にまちづくりができるか？

## 土木計画学にまちづくりができるか？

- MMに代表されるように、土木の内容自体が拡大・拡充してきた。
- もともと **Civil Engineering**  
**=世のため人のため工学**
- まちづくりに必要なあらゆる取組みを土木工学の範疇に加えればよい  
(そのように社会に訴えたい)

# 土木とまちづくりのきわどい関係

- 広域的インフラ整備の重要性を理解している「土木まちづくり屋」が「純粹まちづくり屋」と本質的に対立する場合がある。
  - 都市計画道路の扱いなど
- 歴みちのような「足して2で割る」解決策をもつと活用しよう。





● 今日、鉄道、電信機等の事、衆論<sub>13</sub>紛々として未だやまず。

● 畢竟（ひっきよう）、その久くべからざる所以（ゆえん）を知らずして、もって奇技淫功の類と思える故なり。

● いやしくも、其国家富強の要務、人民利益の本たることを知らば天下の人、必ずはしって之に赴き、督責褒歆を待たざるべし

● 然れども、戸ごとに諭し、人ごとに悟らす可からず

● いわゆる、之に由（依）らしむ可し、之を知らしむ可からざるなり

（明治三年 「工部省を設くる旨」

大隈文書）